

〈教科書「地方議員」リレートーク〉

■千葉県教委による教科書改悪に抗議

千葉県議会議員 無所属 折本 たつのり

昨年の千葉県議会で一般質問を行いました。

奇しくもその日は、ちょうど百年前に「中国革命の父」と称される孫文が神戸で「大アジア主義講演」と呼ばれる演説を行った日です。そのなかで孫文は、日露戦争における我が国の勝利がアジアの民族や有色人種に対して独立への強い希望を与えたことを述べました。

昨年千葉県では、熊谷県政の下で、今年度から県立中学校で使用される教科書の採択が行われ、その結果、歴史公民教科書が、これまでの育鵬社から歴史は東京書籍、公民は帝国書院に変えられました。しかしながら、本県が採択した東京書籍の教科書は、一面的なアジア大陸侵略史観に立ち、我が国がアジアの民族や有色人種の独立に果たした世界的な意義や役割を正當に評価していません。これでは、我が国の誇りある歴史を次世代に継承することは出来ません。

それに、前回の採択と教科書研究の観点が変わっていないにも関わらず、教育委員による無記名投票によって不透明な形で教科書が変えられたことは誠に遺憾であり強く抗議しました。教育委員の選任も、紙切れ一枚の紹介文で資質を判断できないので全て反対しました。皆様のご指導を仰ぎながら引き続き取り組みます。



■日本の教育の変換点

江東区議会議員 国民民主党 二瓶 文隆

江戸から明治、大正、昭和を経て現在に至る我が国の教育は大きな変換点があった。

江戸時代は師弟の關係は厳しく読み書き算盤にあっても人間教育がなされていた、明治維新により過去の教育文化を全否定して西洋風に塗り替えられた。その後、先の大戦に敗れGHQによりそれまでの教育が全否定された。否定の否定でもとに戻ったのではなく、さらに悪い方向になってしまった。

特に歴史教育は先人の知恵や経験を後世に伝え、日本書紀・古事記などの神話には日本が理想とすべき国家とは何かを後世に伝える重要なメッセージであり、少なくとも戦前まではその意義を知り学校教育においても指導してきた。

現場の地方行政では昨年、教科書採択が実施はされたが、少なくとも文科省の検定に合格しているという理由で誤った歴史認識を招きかねない記載の教科書が採択されることもある。我々、保守系地方議員は特定の教科書を採択させるべく活動に力を入れてきたが、これからは、各地方教育行政に対して「国造りは人づくり」であるのだから、日本をどんな国にしていくなのか、そのためにどんな教育をしなければならないのかの議論を原点に立ち返り行わなければならないと確信する。

